

第56回スクエアfreeセミナー

“超高速開発”はどこまで浸透しているのか

株式会社ジャスミンソフト代表取締役

超高速開発コミュニティ幹事

贄 良則

超高速開発コミュニティの現在

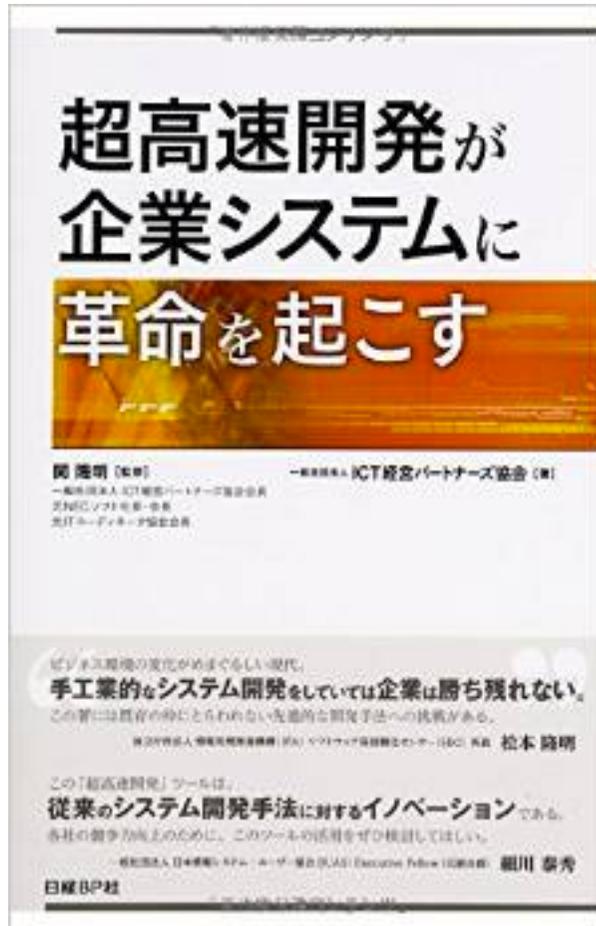
- 2013年8月の発足から1年10ヶ月が経過。
- 会員は187、うちユーザー企業は63。
- 4つの分科会
 - GeneXus, Wagby, Agileツール, モデリング
- 過去の記念講演会
 - 2014年 「ソフトを他人に作らせる日本 自分でつくる米国」
 - 2015年 「国内大手Sierによる超高速開発の取り組み」

他団体・メディアとの連携

- NPO法人ビジネスシステムイニシアティブ協会
- 日本情報システム・ユーザー協会 (JUAS)
- ICT経営パートナーズ協会

- 日経コンピュータ
- インプレス
- 日経BP

「超高速開発」の定義



- プログラムの代わりに、リポジトリ（設計情報）を用意する。
- ソースコードの有無は問題ではない。
- モデリングの能力が求められる。

<http://www.amazon.co.jp/dp/482229627X>

“オルタナティブSI”

日経コンピュータ2015年2月

システム構築（SI）業界で、新しいモデルへの挑戦が始まった。「できるだけ作らない」「付加価値ベースで見積もり」「納品しない」といった、ユーザー企業とITベンダーが協調できるSIモデルの確立へ動き出している。これまでのSIの伝統的ビジネスモデルは、ユーザー企業とITベンダーの間に不信や対立の芽を生み、双方が不幸になる欠陥を抱えていた。こうした旧弊を脱して、新たなSIを実現しようとする各社の試行錯誤と取り組みを紹介する。

超高速開発は流行るのか？

流行ではなく、この業界が必然的に行き着く先であると考えている。

ハードウェアやOSの環境変化に影響されない。

発注元（ユーザー企業）が多大な関心を寄せている。